



アーメージング プrezent

「救いの偉大さと確実性」

Amazing Present

The greatness and certainty of salvation

JOY CHURCH

1

救いの意味とその認識

イエス・キリストを受け入れる信仰によって、自分の罪とその刑罰から赦され、神の子どもとして神のすべての祝福にあずかるようになったという恵みを、神様のみことばを通して確信する、堅い信仰のことです。

(1) 自分の救いへの認識の重要性

たしかに、神様は私たちが永遠のいのちを持っていることを知ってほしいのです。それを知らないのは、救われた天国の一員としては望ましくないからです。以下の聖句の中に、「あなたがたが永遠のいのちを持っていること（=救われたこと）を、あなたがたによくわからせるためです」とし、ปากはそのためわざわざ手紙を書いています。

Iヨハネ5：13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのこと書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。

(2) 永遠のいのちは、もともとイエス様のうちにあるもの

Iヨハネ5：11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこの（永遠の）いのちが御子のうちにあるということです。**12** 御子（イエス・キリスト）を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。

この聖句の 11 節には、「この（永遠）いのちが御子（キリスト）のうちにある」と書かれています。もともと永遠のいのちはイエス・キリストが持っています。私たちは、キリストを排除して、永遠のいのちだけをもらうことはできません。たとえば、あなたが素晴らしい才能や性格の持ち主がほしいならば、その才能持ちの人を雇わなければなりません。才能や性格はその持ち主とつながっているからです。永遠のいのちはイエス様のうちにあり、それは分離することができないのです。それで、「御子（イエス・キリスト）を持つ者はいのちをも持っており」という話となるのです。

(3) 私の中にイエス・キリストがおられるかがカギ

あなたがたが永遠のいのちを持っている（＝救われたこと）かは、以下の聖句（コリント人への第二の手紙 13：5）にあるように、「イエス・キリストがあなたの心の中におられる」かという話になります。

コリント人への第二の手紙 13：5 あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのでですか。一あなたがたがそれに不適格であれば別です。

上記の聖句の中に、「あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのでですか」と問いかけています。これにあなたがどのように答えるかが、問われるのです。それでは、皆さん的心の中に、イエス様がおられるようになるためには、どうすればよいのですか。

(4) あなたはイエス様を受け入れたのか

私とイエス様や神様との関係は、キリストを私の心や人生に招くことから始まります。私がイエス様を自分の人生の救い主として招く、つまり受け入れることで、イエス様は私の心の中に入ってくださると、次の聖句で約束しています。その方は決して私たちが願っていないのに、または受け入れてもないのに、私の心や人生に無理やりに入ることはしません。自分の罪を心から悔い改め、心からの願いをもって受け入れる時、やっとイエス様は私の心の中に入ってくださるのです。

ヨハネ黙示録 3：20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

この上の聖句には、イエス様があなたの心の「戸の外に立ってたたく」と話しています。イエス様があなたの心をたたいているのは、あなたの心の中に入り、あなたとともにし、あなたに祝福を与えるためです。このイエス様のたたく音を聞いて、イエス様をあなたの心と人生に迎え入れると、以下の聖句にあるように、イエス様はあなたの心の中に入ってくださいます。空気を抜いた真空瓶のふたを開けると、自動的に空気が中に入るのが科学です。靈的には、私たちが高慢と不信の自我を抜いて心の門を開けると、イエス様も必ず私たちの心の中に入ってくださっています。同時に皆さんは神様の子どもになるのです。

ヨハネ 1：12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、

その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになつた。

- もしもあなたがイエス様をまだ受け入れていないならば、ここでイエス様を受け入れて、次に進みましょう。

「神様、私は自分が罪人であることを心から認め、告白します。私は自分の罪とその厳しい結果からの赦しが必要であることが分かりました。イエス様が私の罪の赦しのために、身代わりとなって十字架にかかり、私の罪のために死んでくださったこと、またその死からよみがえられたことを感謝します。今、私はイエス様を自分の救い主として、心の中にお迎えいたします。これから自分の人生の主となり、私をお導きください。イエス様のみ名によってお祈りします。アーメン」

(5) イエス様を受け入れたあなたは、神の御靈 の聖靈がやどる神の子どもである

このようにして、イエス様を受け入れると、イエス様は私の中に入るようにになり、この話は神の御靈の聖靈があなたの中にやどるということになります。この聖靈は神の御靈として、あなたの神であり、あなたを導き助け、あなたのために働いてくださる、あなたのための最高の助け主です。

ガラテヤ4：6 そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御靈を、私たちの心に遣わしてくださいました。

救いへの理解や認識の欠如が もたらす問題点

イエス様を信じて救いを得たクリスチャンは、何かが違うはずです。顔にも、言葉にも、行動にも何らかの変化が現れるでしょう。神がその人の心のやどっているのに、何も変わっていないならば、その救いは問題があるかもしれません。これには、いくつかの原因が考えられます。1つは真の悔い改めが伴っていなかった可能性があります。今までの自分の生き方や方向を、キリストにあって変えようとする真の悔い改めの心がなかったという意味です。悔い改めとは、滅び行きの自分の人生列車から降りて、イエス様の永遠なる救いの列車に乗換えるような心構えです。もう1つは、イエス様を受け入れる祈りはしたもの、知・情・意による全人的なキリストとの出会いがなかったことも考えられます。イエス様が救い主であるという確かな知的な同意、そして心からの感情的な願いと喜びをもって、キリストを救い主として受け入れる決断をし、キリストとの全人的な出会いをすることです。それでは、こういう救いへの認識の欠如がもたらす問題点とはどういうことなのか、考えてみましょう。

(1) 成長による力や祝福を受けることができない

ペブル6：1 ですから、私たちは、キリストについての初步の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、**2きよめ**の洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。

神の子どもであるという確信や理解がないままでは、自分の正体性に対する混乱や迷いにエネルギーを奪われ、なかなか成長することも、確信による力や喜びを感じることができません。人間にとての確信や自分に対する肯定的な自画像は、喜びと力、情熱のもとになります。確信や神への所属感がなく、神の国の一員としての輪の中に入れず、だからといってそこから離れることもできないまま、輪の境界線をさ迷い続けるような生き方になってしまふのです。

(2) 悪魔の攻撃の対象になりやすい

I ペテロ5：8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。

悪魔の一番目の目標は、自分の支配下にある人間が自分を離れて、イエス・キリストのほうに移らないようにすることです。ある一人が自分から離れ、神のほうに移るのは、悪魔にとっては一番大きな打撃です。しかし、にもかかわらず自分から離れてしまった人間に対しては、彼らが神の国の一員としてしっかり定着できず、影響力のない状態にとどまることを願うのです。つまり、確信や情熱がないまま、葛藤や疑いの中で人生を送るようにと、さまざまな攻撃を行います。

(3) 心が定まらず疑いや敗北感、罪責感によく陥る

ヤコブ1：6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。
疑う人は、風に吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。⁸
そういうのは、二心のある人で、その歩む道のすべてに安定を

欠いた人です。

クリスチャンになったとはいえ、聖書からの明確な知識や確信がなければ、靈的には一番弱い状態に置かれていることになります。救いへの疑いがあると、周りの環境や自分の感情によって左右されやすくなります。少しの間違いにも敗北感や罪責の念に陥るので、靈的には安定感のない状態となります。この状態では力を発揮したり、神の働きをしたりすることも、喜びや平安を感じることも難しく、不安と無気力な信仰生活となる場合が多いのです。

3

自分の救いの認識や確信への妨げ

わたしたちは、自分の救いをどのように認識しているのでしょうか。それは分からぬ、または分かる必要がない、というような思いがあるかもしれません。この救いに対する確信とは、クリスチャンとして、または救われた天国人としての自分の正体への明確な認識のことです。人間は、大人に成長しながらこのような自己正体に対する理解や確認、自分という存在に対する肯定的な自画像が形成されなくなると、多くの迷いや苦しみを感じたり、仕事や対人関係に苦労を覚えるようになるのです。

(1) イエス様を受け入れ救われたが、確信がないだけの人

このような方は意外と多くいます。受け入れたことに問題がないのに、聖書や関連知識が乏しく、確信を持つことができなかつたということです。このような方は、聖書の関連知識を学ぶことで解決できます。

(2) みことばではなく感情によって救いを確認しようとする

多くの方は自分の感情によって自分の救いを、確認しようとしています。あるときは、自分なりによいことをして、自分が考へてもこのくらいならば、間違ひなく救われたかもしれないと思うようになります。聖書を読んだり、説教を聞いて感動を受けたりすると、感情的にアップしてそれがまるで救いへの確信のように感じることもあります。もちろん、これらも救われた人に現れる実の一つだとは思います。しかし、救われた人でも感情的に苦しい時がたくさんありますので、感情が救いの証拠ではありません。つまり、救いは感情によって決まるわけでも、揺れるわけでもありません。

子どもが生まれて、自分の親の愛される子であると確信することこそ、健康な自己正体性の証拠とも言えます。その子供が悪いことをしたから、親の子ではなくなるということはありません。親子という関係は、どんなことをあっても切ることができません。それなのに、神との親子関係が切れるようなことがありましょうか。人間の親子関係に勝る、この世で一番堅いのが神様との親子関係です。どんなことがあっても切れることがありません。感情的に揺れるのが、関係を左右したり、関係が切れるという証拠ではありません。

詩編121：7 主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。8 主は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしまで守られる。

(3) よい行いによって救われようとする心理

どうやら私たちは何かをしなければ認められないという強い認識と先入観に縛られています。キリスト教以外のすべての宗教、一般哲学も行なうことで救われると教えます。カトリック、イスラム教、仏教（修行を通じた涅槃（ねはん））、ユダヤ教までも例外はありません。幼い頃からそう学んできたこともあり、無料で与えられることには信頼しない傾向があります。まして、永遠の救いや天国をただ受け取れるとは、ありえないことだと思うのです。そう思うあなたなら、それにふさわしい代価を払ってもらえるという考え方ですか？それは絶対に不可能です。同等の対価を支払う能力が私たちにはありません。それでイエス様が十字架の死を通して私の救いの代価を代わりに支払ってくださったのです。聖書で言う救いとは、何かをしてその代価として受けるものではありません。救いは次の言葉のように、行いという代価を払って堂々と受け取れるものではなく、イエス様の十字架を理解し、感謝の気持ちでイエス様を受け入れることによって、値なしに与えられる純粋な贈り物です。以下のエペソの2：8-9には、救いは、信仰によって（イエス様を救い主として信じる）受けるようになる恵みのプレゼントだと、書かれています。9節にははっきり、「行いよるのではありません」と書かれています。

エペソ 2 : 8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出したことではなく、神からの賜物です。**9** 行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。

●なぜ善い行いによって救いを得ることができないのか

一番目は、善い行いで救われるとは、よくないことはしないということが前提となります。しかし、すべての人間にあって、それは保障できません。実に私たちは行動で犯す悪いこともあるが、心の中で犯すのがもっと多いのです。それなのに、完全に自分をきよく保てる人がいるでしょうか。行いにこだわるあなたは、救われないだけではなく、むしろ呪いを受けるようになると書いてあります。

ガラテヤ人への手紙 3:10 律法の行いによる人々はみな、のろいのもとにあります。「律法の書に書いてあるすべてのことを守り行わない者はみな、のろわれる」と書いてあるからです。**11** 律法（行い）によって神の前に義（救い）と認められる者が、だれもいないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる」からです。

2番目は、どのくらい善い行いをすれば、救いに値するか分かりません。その話は、私たちはいつまでも不安の中で生きるしかないという話です。神からの救いのプレゼントは、あまりにも尊すぎて、人間の中に存在する高価なものすべてを支払っても、救いを買い取ることはできません。それほど、救いとは、計り知れない尊いものです。だからこそ、救いとは行いによって得られるようなものではなく、プレゼントとしてしか与えられません。最近多くの人は、口トを買ってい

ます。普通の人はどんなに頑張っても、異次元の生き方ができないので、プレゼントとも言える口トに人生をかけるのです。もちろん、いくら買ってもその当選確率はほぼゼロに近いです。しかし、神様は誰にでもイエス様を受け入れる人には、例外なく神の子どもという特権、永遠のいのち、天国のことをすべて与えてくださるのです。こんなすごい高価な物を、お金やあなたのちっぽけな行いで、もらえると考えてはいけません。そうなると、恵みが恵みではなくなります。

ローマ人への手紙 11:6 恵みによるのであれば、もはや行いによるのではありません。そうでなければ、恵みが恵みでなくなります。

3番目は、もし救いを行いによって得たとするならば、それはまた行いによって取り消されるという話につながります。神の子どもとなるのも、親子関係のように何かをしたからではないのです。子どもが悪いことをしたから親子関係が切れるようなことはありません。神との関係もプレゼントとして与えられたので、罪やよくない行いによって消されるようなことはありません。

4

信仰によって救われるとは、一体どんな信仰が必要なのか

1つは、罪人である自分は自力では救われることができないという告白です。

エペソ2：8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出したことではなく、神からの賜物です。

次は、キリストが十字架の上にかけられて死なれたのは、あなたのような罪人が自力では罪の赦しや救いを得ることができないので、イエス様ご自身があなたの救いのため、十字架の上であなたの罪を背負って死んでくださったという靈的な意味を悟ることです。つまり、あなたのための、キリストの身代わりの死の意味を知り、感謝することです。

3場目は、このイエスを自分の救い主として受け入れれば神の子どもとなるという約束を信じ、イエス様を自分の救い主として受け入れる信仰が必要です。

ヨハネ1：12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

5

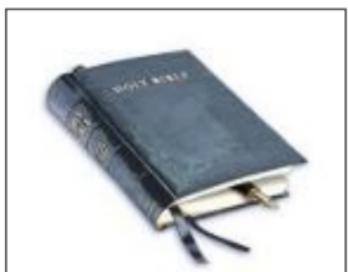
救いへの理解と例話

(1) ペンの例話

永遠のいのちを持っておられる唯一の方を
受け入れたあなたは、救われた者である

I ヨハネ5：11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちに

あるということです。12 御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。



一本のペンが聖書に挟んでいます。聖書を「イエス・キリスト」として、一本のペンを「永遠のいのち」だと考えてみましょう。もし、あなたがこの聖書を手渡されるとするならば、あなたは聖書とともにその中に挟んでいる1本のペンも手に入れることになります。イエス・キリストは、ご自分のうちに永遠のいのちを持っていると言われています。だから、もしあなたがイエス・キリストを受け入れたのであれば、あなたは、イエス・キリストだけでなく、その方が持っている永遠のいのち、祝福、全能の力などの全てのものも一緒に受けれるようになったのです。つまりあなたは永遠のいのちを所有した、救われた者なのです。

(2) 王様の目を取る王様

「人間の罪を御子（イエス）に転嫁するしかなかった神の愛」

ローマ5：8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

昔、ある国の王様にはまもなく王位を受け継ぐ一人の息子がいました。一方その国には性的な犯罪が横行していたので、王様はこの問題で悩んでいました。問題の深刻さを感じた王

様は、「性的な罪を犯した者は両目をとる」という、厳しい戒律を国民に宣布しました。それからしばらくの間、その犯罪は起こらなかったが、ついに1人目の犯人が捕まって王様の前に来ました。しかしその犯人の顔を見た瞬間、王様は声を失いました。その犯人は自分の息子だったのです。王様は悩みに悩みました。国民に宣布した戒律を守らなければ、王の権威が失われるはもちろん、正義が崩れてしまい、王としての存在も危なくなります。だからといって自分の息子の両目を、自分の手でとるという厳しさを考えると、ただ体を振るわせるしかなかったのです。



王様は国民に約束した戒律も守りながら、自分の息子への愛をも示せる方法はないかと、何日間も悩んだ結果、やっと1つの結論を得ました。それは息子の両目をとる代わりに、自分の左の目と息子の右の目を1個ずつとるということでした。これを通して、王

様は国民への約束と正義を守ることはもちろん、自分の息子への愛も示すことができました。神様は私たちの罪を償うために罪のないご自身の独り子、イエス様を惜しまずに十字架にかけ死なせたのです。これこそ人間に対する神様の最高の犠牲であり、目に見える一番確実な愛です。それによって神様は罪には必ず刑罰があるという正義と同時に、その罪人のために最愛のイエス様を十字架にかけるという、人間への最高の愛をも満足させました。キリストの十字架は他人事ではなく、あなたの罪の償いのための尊い犠牲でした。本当は

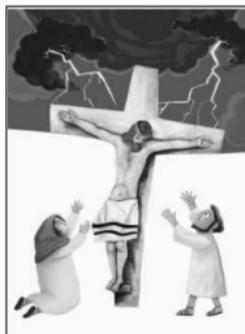
その十字架にあなたがかかり、さばかれ死ぬべきでした。

(3) 避雷針の例話

「あなたの罪の刑罰をキリストが身代わりに受け、あなたの罪の罰を消してくださった」

イザヤ53：4 まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。**5** しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎（とが）のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

イエス様は人間に罪やその結果の深刻性を知らせるためにこの地に来られました。それだけではなく、イエス様は私たちの罪を背負って十字架で身代わりに死ぬために来ると約束していました。以下のヨハネ福音書3章36節には、罪人の上に神様の怒りがとどまっていると書いてあります。



ヨハネ3：6 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることができなく、神の怒りがその上にとどまる。

これはまことに恐ろしいことです。もしあなたの頭上に雷がいつもとどまっていて、それがいつ落ちるか知らないならば、それは真に恐ろしいことです。しかし雷が落ちてもそこに避雷針があるならば、何も問題ありません。避雷針が雷の

電気をすべて吸収してくれるからです。しかし避雷針がないところに雷が落ちてしまったら、そこは真っ黒に焼けてしまい、完全に消えてしまいます。

私たちの罪の結果もそれと似ています。罪によって私たちが受けるようになる刑罰は、雷とは比べられないほどすさまじいことになるかもしれません。しかしいエス様が私たちを安全に守るために、十字架で私たちの罪による怒りを丸ごと受けて死んでくださったのです。まるで避雷針のように、私たちが受けるべき怒りの雷を受けたということです。したがって、あなたはこの避雷針であるキリストの十字架によって、少しの害も受けることなく、安全に守られ、救われるようになります。あなたの罪とその刑罰による雷からあなたを守ってくださった、キリストの十字架の避雷針の下にあなたがいるかぎり、あなたは永遠に平安の中で生きることができるでしょう。最近の新聞記事に、火事現場で見つかった悲しい親子の遺体の話がありました。お母さんが小さい子供を火から守るために、胸に抱えたまま死んでしまった姿のことでした。イエス様はあなたを罪の刑罰から守るために、十字架の上であなたの身代わりに死んでくださったのです。

(4) 握手の例話

あなたの救いと永遠のいのちは、神様と
キリストの両手にいつも守られている

ヨハネ10：28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。
彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から

彼らを奪い去るようなことはありません。29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。



みことばによると、神様の手とイエス・キリストの手が、あなたの手を握っていると書いてあります。この世の中で最も力強い2人の手があなたを握っています。この世の何ものも、あなたをこの2人の手から奪い取ることはできません。しかし、時々救われたあなたは、この2人の手を握らずにふらふらしたり、感情的に確信をなくしたりすることもあるでしょう。しかし、神様とイエス・キリストのみ手が、いつもあなたをしっかり握っていて、あなたの救いは決してなくなることはありません。あなたの靈的な状態がどうであっても、あなたの救いは完全に守られます。つまり、この世のどんなものも、あなたと神様との関係を切ることはできません（以下の聖句参照）。

ローマ8：35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

アメージング プレゼント (救いの偉大さと確実性)

Amazing Present (Greatness and Certainty of Salvation)

著 者 姜 錫在 (カン スッヂェ)

発 行 日本国際宣教会／JOY CHURCH

〒812-0045 福岡市博多区東公園4－5

電 話 092(643)5534

印 刷 株式会社 マイティ

E-mail joyskan@gmail.com

非売品